



教えて！加藤先生

道徳

筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修者

子どもが変わる！ 道徳授業

「分かった！」

「先生、はじめの考えと変わった！」

「ということは、これじゃあ違うのではないかな。」

「先生、授業終わっちゃったけど

今思いついたから聞いて！」

子どもたちは一度スイッチが入ると、

とどまることを知りません。

そのような授業を

したいと思いませんか？

ちょっとした発想の転換で、

そんな道徳授業ができるのです。

その「極意」をお伝えしていきたいと思います。

子どもたちは変わりたがっている！

従来の道徳授業は、規定のモノサシが外にあり、それに子どもたちをあてはめようとする考え方が強かったように思います。「どうすればよいか」を考えさせる展開です。これでは子どもたちは変わりません。我慢するだけです。

逆に、モノサシを子どもたちの中に創るという発想に転換したらどうでしょう。子どもたちは嬉々として「大切なものは何か」を考え始めることでしょう。価値観の再構築を子どもたちに委ねるのです。この展開をするには勇気が必要です。子どもたちの「よりよくありたい、変わりたい」という心を信じて委ねることができるかどうかです。もちろん、委ねっぱなしではいけません。教師は機を見て必要な手立て、手入れを行います。その勘所、さじ加減も重要なポイントでしょう。これが指導です。

道徳が教科となった今、授業で何を教え、何を考えさせるのかという見通しを、これまで以上に明確にもつ必要があります。